従業員のコスト意識向上と施策上の注意点

コスト削減の必要性は今さら言うまでもありませんが、しかし部下は、その「コスト」を本当に意識しながら仕事をしているでしょうか。

特に若い部下の場合、甚だ心許ないものがあります。

管理者にとって、部下への意識付けが重要な役割となるのです。

「コスト意識の定着

何をどのような方法でコスト削減するか、具体的に示すことが重要です。しかし、それ以上に重要視しなければならないのが、コスト意識を徹底して植え付けることです。

いかに具体的で立派なコスト削減策を指示したとしても、社員自身の頭の中にその意識がなければ積極的に実行しようとはしないでしょう。それでは、それを認識させるにはどうしたらよいでしょうか。

① コストとは何か、を教える

実際問題として、社員の中にはコストについて十分理解していない者が少なくありません。そこでまず、〝コストとはいったい何か〟を徹底して考えさせるようにしましょう。

売上高とコスト、利益の関係において、「自社独自」のコストへの考え方を分かりやすく説明しなければなりません。

ここで「自社独自の」と強調したのは、コストに対する考え方が業界ごとに、そして各社ごとに、少し異なるからです。

コストとは、企業が事業活動を行う上で必要とする費用、つまり、経費のことを指します。

例えば、すぐ思い浮かぶのは家賃、人件費、水道光熱費、通信費、などが挙げられます。他にも、目に見えないものだと、労力や時間もコストを構成する大事な要素であることを具体的に教えていく必要があるでしょう。言い換えれば、働く者一人ひとりの一挙手一投足が、コストであることという認識を持ってもらう必要があります。

② 部下の利益になることを……

社員の中には、コスト削減は会社の利益に役立ちはしても、自分たちには関係がないと思っている者がいます。しかし、コスト削減によって会社が潤えば、また利益が出れば、支払われる賃金やボーナスなど、パイの分け前も多くなって部下自身の利益にも大いに関係してきます。

管理者としては、コストの削減は会社ばかりでなく、社員の利害にも大いに関係していることを訴えなければなりません。自分たちの利益になって跳ね返ってくることが分かれば、積極的に関心を持たざるを得なくなります。

ここまで説明してもなお、意識が薄いとなれば、そんな人は、現代のビジネス界には不要な人と言ってもよいでしょう。

③ 日常的にコストの話をする

コスト意識は、一度や二度説明したからと言って、理解してもらえると考えるのは単純すぎます。日常的に口うるさく言わなければ、コスト意識を植え付けることはなかなかできるものではありません。

特に、物資が豊かな現代に育った若い社員たちに対しては、ことあるごとに、コスト削減、ムダ削減を呼びかけましょう。

④ ムダ・ムリ・ムラの指摘

コスト削減を端的に言えば、仕事のムダ・ムリ・ムリを排除することです。

とはいえ、何がムダであり、どの

ようなことがムリやムラであるかが認識できない者が結構いるはずです。

そこで、管理者としては部下の仕事ぶりを注意深く観察し、不合理な所業や所作に気が付いたなら、その都度、具体的に指摘してやらなければなりません。

管理者から、そうした指摘を受けながら、部下は、ムダなコストとはどういうものであるかを体得していくのです。

⑤　コスト削減のアイデア提案

コスト意識を植え付け方法として、社員自らに、その削減アイデアを考えさせることも極めて有効です。

アイデアを提案させることは、否が応でも真剣にテーマと取り組まざるを得なくなります。

この取り組みを単発で終わらせるのではなく、定期的、継続的に行なうことで成果が見られるようになるでしょう。

コスト削減の進め方

では、実際にこれらの施策を推進していく場合、経営者や管理者は、どのようなことに留意する必要があるでしょうか。

①　コスト削減目標を明確に示す

まず、コスト削減の目標と理由を具体的かつ明確に示す必要があります。しかし社員に、その削減の矛先が人件費や福利厚生にばかり向いていると思われてしまえば、社員は不利益を被ったと感じてしまい働く意欲を削がれてしまうでしょう。このような事態を避けるためにも、コストダウンを行う場合は、省くべきコストを慎重に見極めることが重要です。

従って、社員に対しては、削減の目的と理由を十分に説明することが重要になります。その説明が行き届かないようであれば、いくら「コスト意識の徹底を」と叫んでも、部下の納得が得られないまま単なるスローガンで終わってしまうでしょう。

②　経営者　管理者自らが範を示す

管理者の中には、部下にコスト削減を口やかましく注意するくせに、本人にその努力の影も見えない人が、少なからず見受けられます。

これは、管理職の姿勢としては整合性を欠くことになり、部下の信頼をなくしてしまいます。上の者がこのような姿勢では部下が無関心になるのは当然です。

成果を上げようとするなら、まずは管理者自らが範を示し、率先してムダ・ムリ・ムラの排除に取り組みましょう。とりわけ、経費のムダ使いには常に注意しなければなりません。そしてこれが、なによりも社員のコスト意識を高めることに繋がることになるのです。

③　競う場をつくる

コスト削減について、社員や部署の間で競わせることも効果的です。

例えば、言うなれば、「コスト削減競争」のようなイベントを展開してもよいでしょう。優秀な成績をあげた社員や部署を表彰するなど、何らかの形でその努力に報いることを考えてもよいでしょう。

つまり、社員それぞれが、自らのコスト削減目標を数字に落とし込んでいくことで、より一層コストダウンへの意識も高まります。

さまざまな創意工夫で意識の改革を促し、定期的・持続的な実施でコスト削減意識を定着させていきたいものです。

④　結果を報告・発表する。

コスト削減を掲げ、キャペーンやコンクールを実施した場合には、その結果を必ず発表することが重要です。

この場合、留意すべきことは限られた職域の結果だけではなく、会社全体としてどのような結果が得られたかについても報告しましょう。

中には、コスト削減をくどくど言っている割には、結果について一向に報告や説明をしない会社があります。しかし、これでは意味がありません。

必ず、浮き彫りとなった問題点や反省点、成果の報告とともに今後の改善方針などを報告し、経営者、管理職、部下、社員一丸となって、よりいっそう意識を高めていくことを忘れてはなりません。